

農作業事故防止へ試験

三重・JA 身体データ測定に協力
伊勢子会社

【三重・伊勢】JA伊勢の子会社「あぐりん伊勢」は7月下旬、中部電力と三重大学が研究するバイタルセンシングの実証試験に協力した。あぐりん伊勢の社員が呼吸や心拍数、体温などのバイタルを測定する装置を身に付けて農作業を行い、データを取得。バイタルデータを解析することで、作業負荷やストレスなどを予測し、農業事故防止につなげる。

この研究は、中部電力と三重大学が2022年から進めるもので、今年で3年目。専用の



農作業を行う社員のデータを測定する学生ら

装置やウェアラブルカメラを、農業者が装着し、リアルタイムで動作や姿勢、位置情報、目線、心拍、脳波などを読み取る。読み取ったデータは、状態推定AI（人工知能）を活用し、作業中のストレスや暑熱を検知し、農業事故の予兆診断をする。

導入に向けて、同社と同大学は県内の一部地域でデータの収集を行う。作業時間は2時間、夏場のさまざまな時間帯で検証する。

実証試験の当日に作業を行ったのはあぐり

ん伊勢社員2人で、作業前と作業後の心拍数や脳波、呼吸などの変化を調べた。また、作

業中の社員の姿勢が正しく保たれているかどうかを調べるため、スマートグラス（カメラ付き眼鏡型端末）での撮影も行った。

中部電力の担当者は「システムを構築して、農作業中の事故を少しでもなくすことができたらしめたい」と話していた。